

## 第5回和光市レベル4モビリティ・地域コミッティ 議事要旨

1. 日 時： 令和8年3月26日（木） 14:00～15:00
2. 出席者： 出席委員名簿のとおり 資料1
3. 報 告： **【報告事項】** 資料2及び別紙
  - (1) 令和7年度における実証走行の中止について
  - (2) 令和7年度社会実証の取組と成果
  - (3) 第6回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキングの開催結果について
4. 議 事： **【議事事項】** 資料2
  - (1) 自動運転の動向と今後の進め方について
5. 要 旨
  - (1) **【報告事項】** (1)令和7年度における実証走行の中止について、資料2を基に説明し、以下の意見を頂いた。

<構成員から頂いた主な意見>

- ・ 運転手不足の問題は今後さらに深刻化することが見込まれ、今回の結果は非常に残念である。
- ・ 車両採用に伴う地政学的リスクについての具体的な指針は、現時点において示されていないものと認識している。また、国産車の量産化の予定について、現時点で把握している情報はない。
- ・ 現在、EVバスの国内シェアの大部分は海外メーカーが占めている。燃費やEV技術面においても、国産メーカーよりも一歩進んでいる海外メーカーもある。サプライチェーンの問題では、国内メーカーでも半導体やバッテリーは海外製に依存しており、国産イコール安心ではないという認識である。
- ・ バスが一般道を走行することで、バスの停車による一般車両への影響が懸念されるが、バス専用車線を整備することで、公共交通と一般交通との混在が減る。これにより公共交通の定時性と安全性が確保でき、緊急車両も走行できるため、その役割として期待できる。引き続き、できることは協力したい。
- ・ 自動運転に限ったことではないが、一般的にはバス専用通行帯という交通規制がかけられていることで、定時性及び安全性が図れる。特に一般車両との分離により交錯リスクを回避できるという利点がある。
- ・ 自動運転サービスの実現は、深刻化するバスやタクシーの運転手不足を解決する有効な手段となるなど、和光市の実証実験は県内における先進事例として期待している。早期の事業効果の発現が望まれることから、事業の推進を前向きに検討いただきたい。

(2) 【報告事項】(2)令和7年度社会実証の取組と成果について、資料2を基に説明した。

<構成員から頂いた主な意見>

なし

(3) 【報告事項】(3)第6回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキングの開催結果について、資料2及び別紙を基に説明した。

<構成員から頂いた主な意見>

なし

(4) 【議事事項】(1)自動運転の動向と今後の進め方について、資料2を基に説明し、自動運転の動向について、以下の意見を頂いた。また、議事事項を採決した。

⇒採決結果：賛成多数で可決

<構成員から頂いた主な意見>

- ・従来から進んでいるAIベースについては、日本を含め、全世界で開発競争が激化しているが、個別具体的な動向は把握している状況にはない。全国各地で地域コミッティや自動運転バスが実証されている中、検討段階であるもののAIベースで検討を進めている地域もあることは承知している。
- ・市域北側の土地利用の進展や交通需要の変化を踏まえた計画見直しは、現実的な判断だと思料する。今後、自動運転技術の進展状況や国の施策動向を注視しながら、段階的な実施方針の検討を進められたい。

以上